

チェチェンの^{いま}現在を語る

わたしは自己の能力と判断の及ぶかぎり、病者の治療に力を尽くします。
わたしの治療によっていかなる人を傷つけることも欺くこともいたしません。

————ヒポクラテスの誓い

2006. 7/17 チェチェンの現在を語る —ハッサン・バイエフ医師来日延期報告—

主催：ハッサン・バイエフを呼ぶ会 共催：チェチェン連絡会議

資料集目次

プロフィール・講演・イベントスケジュール.....	2
チェチェンの子ども達国際委員会の最近8ヶ月間の活動に関する報告.....	3
チェチェンの子ども達国際委員会について.....	5
ハッサン・バイエフ、チェチェンを語る（米国での講演）.....	7
林克明：チェチェン人の詩—伝説の医師ハッサン・バイエフ招聘に寄せて.....	10
人物解説：チェチェン野戦司令官シャミーリ・バサーエフ.....	11
シャミーリ・バサーエフ死亡について 最近の報道から.....	12

チェチェン戦争が始まって12年。ロシアのチェチェン共和国では、1994年から続くロシアの軍事侵攻によって、100万人の人口のうち20%から25%が死亡し、50%が難民としてチェチェン国外に逃れています。私たち「ハッサン・バイエフを呼ぶ会」は、世界でもっとも悲惨な戦争を目の当たりにしながらも、医学の祖ヒポクラテスの誓いを胸に、敵味方の区別なく必死の治療にあたり、今もチェチェンでの監視活動を続けるチェチェン人のハッサン・バイエフ医師を日本に招くために準備を進めてきました。

残念ながら当初の招聘期間中にはバイエフ医師の来日を実現させることはできませんでしたが、今回の報告会では、バイエフ医師から届いたビデオやプレゼンテーション映像や、最近死亡が報道されたチェチェン野戦司令官シャミーリ・バサーエフに関する報告を交え、チェチェンの最新情報をお届けします。「バサーエフ後のチェチェン」に、私たちは何ができるのか？皆様とともに考えてきたいと思えます。

主催団体：ハッサン・バイエフを呼ぶ会について ハッサン・バイエフを呼ぶ会は、チェチェン支援者、ジャーナリスト、出版社、格闘技関係者などの有志が集って結成した団体です。この来日は一般の皆様からの寄付によって支えられていますが、まだ資金が不足しています。どうか、募金にご協力をお願いします！

送金先：郵便振替口座 口座番号：00180-6-261048 加入者名：チェチェン連絡会議

金額：一口3,000円（お手数ですが、通信欄に「バイエフ」とご明記ください）

連絡先：ハッサン・バイエフを呼ぶ会 共同代表 林克明／岡田一男 〒112-0001 東京都文京区白山2-31-2-101 岡田一男気付 電話：03-4500-8535 Fax：03-3811-4576 Mail：

baiev@zau.att.ne.jp <http://tokyocinema.net/baiev.htm>



photo: Tohoku Judo Club

ハッサン・バイエフ Khassan Baiev(外科医、柔道家)

1963年、チェチェンの首都グロズヌイの郊外、アルハン・カラ生まれ。1977年、ソ連邦ジュニア柔道大会で優勝し、以後多くの柔道大会にて金メダルを獲得。1985年、クラスノヤルスク医科大学卒業。1988年チェチェンに帰国し、首都グロズヌイにて形成外科医として医務につく。1994年、ロシアーチェチェン戦争の勃発とともに、野戦外科医として活躍。敵味方を区別しない医療活動のために、ロシア連邦軍とチェチェン過激派双方から命を狙われる。2000年米国へ亡命、同年11月米国NGO・ヒューマンライツ・ウォッチから「2000年人権監視者」の栄誉を受けた。NGO、チェチェンの子ども達国際委員会議長。

柔道の創始者である故・嘉納治五郎氏を心から尊敬するバイエフ医師は、来日のさいに講道館道場での暑中稽古も予定しており、日本訪問を心待ちにしている。



関連書籍「誓いーチェチェンの戦火を生きたひとりの医師の物語」

ハッサン・バイエフ著 天野隆司訳 アスペクト刊 2004年 2,940円

勇気ある真の人間(書評) バイエフはロシア人、チェチェン人の区別なく、時には彼自身を危機に陥れようとする人物までも執刀した。たとえ相手が何者であれ、患者の命を救うためにぎりぎりまで努力した。しかし、彼は「医師」である前に、「勇気ある真の人間」であると言いたい。…バイエフは、患者や家族のために、自分の命をたびたび危機にさらしている。そんな彼を神は見捨てない。危機一髪で何度も命拾いをする。あたかもバイエフの覚悟ある行動を見届けた神が、ぎりぎりのところで、運命の駒をよい方向へちよっとずらしてくれているようだ。——林京子/チェチェンニュース2004.6.4



チェチェン戦争とは? ロシア南部に位置するチェチェンは、19世紀にロシアが併合した地域で、先住民族のチェチェン人が人口のほとんどを占めている。1991年のソ連邦崩壊の際、チェチェンは独立を宣言したが、94年、ロシア政府は武力侵攻を開始した。その後3年間の休戦をはさんで、泥沼の戦争が続いている。この戦争によって、人口100万人のうち、すでに20万人の民間人が犠牲になったと言われている。

講演・イベントスケジュール (来日延期) ※7/15現在の情報です。

- 7/15(土) 【中止】 東京[バイエフ医師来日歓迎パーティー] 文京区民センター
- 7/17(月) 【決行】 チェチェンの現在を語るーハッサン・バイエフ医師来日延期報告 19:00-21:20 文京シビックホール・小ホール 参加費：無料 交通：地下鉄丸ノ内線・南北線「後樂園」駅徒歩1分/地下鉄三田線・大江戸線「春日」駅徒歩1分 主催：バイエフを呼ぶ会 共催：チェチェン連絡会議 連絡先：03-4500-8535/baiev@zau.att.ne.jp (岡田)
- 7/18(火) 【中止】 京都[チェチェン人のイスラーム信仰とロシア/チェチェン戦争下での私の宗教体験] 同志社大学今出川キャンパス
- 7/18(火) 【中止】 京都[チェチェン問題講演会 チェチェン人医師ハッサン・バイエフ氏と日本山妙法寺・寺沢潤世師講演会 圧倒的暴力の下での非暴力の戦いの可能性] 同志社大学今出川キャンパス
- 7/20(木) 【中止】 弘前[戦火を生きた外科医の報告 チェチェンの医療危機と子ども達] 弘前大学本町キャンパス
- 7/22(土) 【決行】 横浜[チェチェンの現在を語るーハッサン・バイエフ医師来日延期報告] 13:30-15:30(開場13:00) あーすぶらざ5F映像ホール 参加費：無料 交通：JR根岸線「本郷台」駅改札出て左手すぐ 主催：神奈川県国際交流協会 連絡先：090-6101-6113(日本ビジュアル・ジャーナリスト協会) (写真展[世界の戦場から]関連企画)
- 7/23(日) 【中止】 広島[チェチェンの戦火を生きた医師の声を聴く] 広島市まちづくり市民交流プラザ
- 7/25(火) 【中止】 長崎[チェチェンから長崎へー戦火を生きた外科医の報告ー] 長崎県教育文化会館
- 7/26(水) 【中止】 東京[バイエフ医師報告会&送別会ー日本縦断講演を終えてー] 文京区民センター



友人および支援者の皆様

「チェチェンの子ども達国際委員会」の過去8ヶ月の活動を報告します。

3月に、委員の一人がチェチェンを訪問しました。訪問の目的は、進行中のプロジェクトを評価し、6年におよぶ戦争の中でとてつもない犠牲を受けている子どもたちを支援するための、最良の方策を検討することでした。

委員によれば、人々が銃撃されるような状態はほとんどなくなっていました。彼らはチェチェンの外からの支援がほとんど受けられない中で、破壊され尽くした生活を再建しようと必死になっています。戦争の結果は、しばしば戦闘そのものよりも悲惨なものです。人々は疲れ果て、親族を失った悲嘆に暮れ、人生を変えてしまった心身の病と闘っています。いくつかの学校や病院が再建されましたが、医師や看護師、教師が不足しています。

私たちの代表は、皆様の寄付金が過去に使用されたいくつかの団体への訪問を行いました。

グローズヌイ聾学校では、二人の教師に特別訓練を行いました。委員の視察によって、子どもたちが、私たちの提供した教科書やその他の物資を使って学んでいることが確認されました。

→現在必要とされているもの：聴覚や視覚に障害を持った子どもたちに教えるための道具

グローズヌイの第二小児神経病院では、私たちの支援によって、ようやく電気と水が復旧し、病院が再び機能するようになりました。子どもたち

は、私たちが送った6つの箱に入っていた玩具を使って遊んでいます。

→現在必要とされているもの：医療物資全般

貧困家庭への支援：委員は、私たちが少額の寄付や衣料を提供しているいくつかの家庭を訪問し、新たに300の貧困家庭に600の小麦袋を配給するよう手配しました。けれども、少額の寄付や数枚の衣服、小麦袋といったものだけでは、絶望的なほどの貧困状態にある家庭——彼らの多くはストリートチルドレンになっていた孤児を引き取っています——を支えることはできません。ですが、彼らが心から感謝してくれたことで、自分たちのしていることが無駄ではなかったと思うことができました。委員の報告によれば、彼が訪れたときに泣いてしまった家族もいたそうです。米国人が自分たちのことを気に掛けてくれていることなど、想像もできなかったのでしょうか。「あなたたちが私たちを救ってくれた」と言った女性もいました。

今後の計画：委員の訪問によって、「チェチェンの子ども達国際委員会」が支援することのできそうないくつかの団体が見つかりました。

委員は、チェチェン視覚障害者連盟——理事のハーヴァ・カーリーモヴァと彼女の夫がともに視覚障害者の団体——と連絡を取りました。カーリーモヴァ夫人の報告によれば、目の見えない子どもたちを受け入れていた3校のうち2校が、戦争によって破壊されたということです。今では、目の見えない子どもたちは、しばしばひどい状態で——教育や訓練を一切受けることもできず——ただ家の中で暮らしています。

→現在必要とされているもの： 適応指導、聴覚装置、点字習得教材、視覚障害者用ゲーム

委員は、チェチェン AIDS 対策センターのヘダ・アイドミーロヴァと会見し、HIV 感染が特定のリスク集団から住民全体に広がってきているという報告を受けました。感染者の中には、妊娠可能年齢の女性や、子どもたちもいます。

彼女の報告によれば、毎月 8 名から 10 名の新たな感染者が発見され、絶望的な社会的・経済的状況や、失業、若い世代の倦怠によって、状況は悪化の一途を辿っているということです。

→現在必要とされているもの： HIV 感染を診断・治療するための医療物資

委員は、地元のパン屋と契約し、聾学校と小児神経病院に一日 50 斤のパンを届けてもらうよう手配しました。これは単に子どもたちに食事を与えるというだけの契約ではなく、現地の雇用を活性化させることにもつながります。

アルハン・カラの子どもたちのダンスグループ：このグループは、若者を路上から引き離し、戦争の経験しかない彼らに文化の重要性を教えようとする熱心なボランティアによって設立されました。

→現在必要とされているもの： 楽器、衣装シンセサイザー

●統計

現在のチェチェンの推定人口は 45 万人です。1994 年の第一次チェチェン戦争が始まる前には、チェチェンの人口は 100 万人強でした。推定 25 万人のチェチェン人が戦争によって死亡しています。推定 15 万人が難民としてチェチェン国外に逃れています。また、推定 15 万人のチェチェン人が国内避難民として地下室や爆撃された建物の中で暮らしています。

- 国土の推定 75%が環境汚染を受けている。
- 約 4 万人の子どもが戦争で命を失った。
- 2 万 6 千人の孤児がいる。
- 約 1 万 4 千人の子どもたちが病気にかかっている。
- 2 人に 1 人の子どもが先天的な障害を持って生まれてくる。
- 妊娠中の女性のうち推定 80%が妊娠関連の病気にかかっている。
- 推定 40%の子どもが視覚または聴覚に問題をかかえている。視覚または聴覚、発声に障害を持つ子どものうち、教育を受けている割合は 5%にすぎない。
- 検査を受けた子どものうち推定 70%が肺結核にかかっている。

最後になりますが、改めて皆様のご支援に感謝いたします。皆様のご支援のおかげで、チェチェンの人々は、自分たちが世界から完全に見捨てられているわけではないと思えるようになってきています。

ハッサン・バイエフ医師





チェチェンの子どもたち国際委員会（議長 ハッサン・バイエフ医師）

アメリカ合衆国非営利(501)(c)(3)法人

The International Committee for the Children of Chechnya

P. O. Box 381305 Cambridge, MA 02238 USA info@chechenchildren.org

●チェチェンの子どもたち国際委員会の始まり

チェチェンの子どもたち国際委員会（ICCC）の構想は、1995年の春にロシア兵士の母たち、仏教僧たち、クエーカー（友会徒）の一団がモスクワからチェチェンの戦場に向かう行進に出発した時に生まれました。

「生命と思いやり」のための母親たちの行進は、グローズヌイを目指すものでした。その道すがら、彼らは殺戮と暴力を目撃し、戦う双方の軍人たちと出会い、語り合い、そしてチェチェンの母親たちから歓迎を受けました。行進者たちは行進にあたって自らの生命を危険にさらしました。そして、彼らを歓迎し、助けたチェチェン人たちもまた、生命を危険に晒すことになったのです。

母親たちの行進は、双方の兵士たちに武器を置くことを呼びかけ、ロシア、チェチェン双方の指導者たちに、交渉の席に着くように呼びかけました。また、参加者たちは、世界に向かってチェチェンで何が起きているのかを見守るように呼びかけました。

ボストン在住の数名の女性たちは、行進者たちと彼らを歓迎したチェチェン人たちの勇気を称えようと思いました。私たちはチェチェン平和実現の活動を支援することを決意したのです。私たちはまたチェチェンの子どもたちに代わって活動していくこと、彼らの両親や、学校の先生たちや、リハビリテーション活動家、お医者さん、そして母親行進の信念を共有するすべての人々の努力を支えていくことを決意したのです。

●「生命と思いやり」のための母親行進の声明 （1995年春）

生命は地上における最も偉大な宝です。いかなる状況にあっても一人の人間が生きる権利を奪うこと、何者であっても、してはならないことです。このことは、あらゆる国内法、国際法によって疑いもなく保証されています。しかし、チェチェンにおける戦争は、数万人に及ぶ罪なき人々の生命を奪い続けています。そして数十万の人々の家庭や、資産や、幸福を破壊しています。戦争はあらゆる平和的手段を駆使して押しとどめなければなりません。

数百名のロシア兵士の母親たちは、息子たちを戦場の地獄から守れるなら、自分たちの命も惜しくはないと覚悟しています。この思いやりの心こそ、この狂気、恐怖と憎悪を克服して、平和を達成する唯一の力です。

この行進は、こうした母親たちの思いやりの心の意思表示として行われています。その目的は、戦争の終結を呼びかけ、チェチェンの人々を襲った痛みと悲しみを分かち合おうというものです。

行進の参加者は、ロシアとコーカサスの母親たち、ロシアと諸外国の宗教団体、人権ならびに人道支援団体の代表たち、ジャーナリスト、そして非暴力と思いやりの心の力を信じる者たちです。

私たちは、世界中の善意の人々、反戦活動家、宗教指導者、軍隊の司令官、報道関係者、地方行政指導者に、支援と協力を訴えます。そしてこの行進に加わって下さるあらゆる方々を歓迎します。

この「生命と思いやり」のための母親行進は、

民族と宗派を超え、民衆の運動となって、苦しみを癒す力の源泉となり、人々に平和と幸福をもたらすことを願っています。

●ICCC 現行役員

ハッサン・バイエフ医師（議長） Khassan BAIEV

アメリカ在住のチェチェン人外科医でチェチェンの健康で安全な未来と、子どもたちのために活動しています。彼は「誓い」（日本語版・2004年アспект刊）の著者です。この本は、彼の生い立ちと最近の二つのチェチェン戦争の回想を綴ったものです。バイエフ医師は、ヒューマンライツ・ウォッチ、国境なき医師団、アムネスティ・インターナショナルなどから表彰されています。

ルス・ダニーロフ（創立メンバー） Ruth DANILOFF

北コーカサスにおける人権問題に長い間関心を寄せてきた女性作家・ジャーナリストです。彼女の論評はニューヨーク・タイムズ紙、ワシントン・ポスト紙、ボストン・グローブ紙、スミソニアン・マガジン誌その他の国内外の紙誌に掲載されています。彼女はバイエフ医師およびニコラス・ルスと並んで「誓い」の共著者でもあります。

イヴリン・J・ムッサー Evelyn J. MUSSER

教師兼非営利組織の経験豊かな事務局員です。彼女はこれまでずっとロシア問題に関心を寄せ、国際研究交流ボード (IREX) のような米国の教育 NGO で、モスクワにおける文化プログラムの事務管理者を務めてきました。

ラムザン・マゴメードフ Ramzan MAGOMEDOV

オレゴン州ポートランドのメイ・マネージメント社の投資マネージャーです。チェチェンに生まれ、1992年に米国に移住しました。彼は（中部ロシアの）サラトフ大学で獣医学を学びました。米国ではミネソタ農業大学で学び、ティガード・ロータリー・クラブの役員と、レーク・オスウェゴ商業会議所の議長に選出されました。ICCC の役員には2004年12月に加わっています。

グウェンドリン・ウィッターカー（創立メンバー）

Gwendolyn WHITTAKER

特に旧ソ連地域の人権問題や文芸に関心が深い女性フィクション・ライターです。彼女は長い間、アムネスティ・インターナショナルでのボランティア活動を続けています。





ジェノサイドに関する記録を人々に伝えるために多くの貢献をしてきた米国ホロコースト記念博物館での対談にお招きいただき、大変光栄に思います。また、博物館が消滅の危機にある国家および民族グループの監視リストにチェチェンを加えてくださったことに、お礼を申し上げます。

チェチェンの人口100万人のうち約四分の一が、現在進行中のロシアとの残虐な戦争の中で、命を失いました。そのうち4万2千人は子どもたちです。米国でいえば、3千万人がすでに亡くなっているという計算になります。チェチェンの人口の50%は、現在チェチェンを逃れ、ロシア国内や欧州、米国で暮らしています。ある友人が語るには、国民の半数が故国の外にいるような国家は、すでに国家として存在しないも同然だということです。

私は著書の中で、戦争の恐ろしさについて語りました。間違いようもなく、戦争とは悪なのです。戦争には勝者など存在しません。とはいえ、私は暴力のことだけを語ったわけではありません。チェチェン人——9.11後の世界で国際テロリストとして敵視され、極めて不当な扱いを受けている人々——についても語っています。それから、自分の子ども時代のこともし書きました。読者の方には、愛情と怒り、そして悲しみを抱く、人間として私たちを見てほしいと思っていますからです。

すべての近代戦がそうであるように、チェチェンでも市民が最大の犠牲者になっています。米国

の統計によれば、今日の戦争では犠牲者の90%が市民だということです。20世紀が始まった頃には、戦争で犠牲になる市民は5%しかいませんでした。今やチェチェンでは全土で医療が崩壊しています。国のほとんどが地雷——各種の統計によれば約50万発の地雷——に覆われています。UNICEFの統計によると、すでに1万人の人々が地雷によって命を落としており、その大半は女性と子どもたちです。戦争中、ロシアは木々に枯葉剤を散布しました。枯葉剤の毒素によって、皮膚の炎症や腸の病気が発生しています。子どもたちの癌や白血病といった血液の病気の罹患率が高まっているのも、こうした環境汚染が原因であると私は思っています。生後1年以内に死亡する幼児の割合も非常に高い状態です。ロシアの1000人当たり18人や、米国の1000人当たり7人と比べて、チェチェンでの死亡率は1000人当たり26人にも上っています。チェチェンの小児科医の統計によると、2～3人に1人の子どもが、先天的な障害を持って生まれてくるそうです。私自身も、目と耳が3つずつあって、鼻のあるべき場所に穴があいている赤ちゃんを連れて私のところにやってきた母親のことを覚えています。

住民の間に蔓延しているのは体の病気だけではありません。私が思うに、民族全体がPTSD(*1)に苦しめられています。誰もが神経質になっています。記憶力の低下や不眠症、鬱に悩まされています。自殺や自殺未遂が、ありふれた出来事になっ

ているのです。20代の男性が心臓発作を起こすこともあります。慢性的なストレスによって、母親は母乳を与えることもできません。子どもの肺結核の発生率も非常に高くなっています。

私はチェチェンの戦時医師であったとき、ほとんどつねに、電気もなく、水や熱もない状態で、手術を続けてきました。雪の積もった屋外や、地下室、台所机の上、床の上で手術を行いました。消耗していく物資をやり繰りして手術をする方法も見つけなければなりません。

私は故国の将来を心配しています。終わりの見えない紛争が、私たちの文化を侵食しています。教育も医療援助もなく、ロシアへの憎しみを糧として成長していく世代が出現しています。奇妙に思われるかもしれませんが、私はチェチェンを離れたことを後悔しなかった日は一日たりともありません。故国にこれほどまで多くの苦しみがある中で、私は米国で安楽に暮らしている、それが後ろめたいのです。

2年前、私はチェチェンの子どものための国際委員会の代表に就任しました。この非営利団体を通じて、私は戦争の犠牲になる子どもたちを助けたいと思っています。最近、私たちは、グローズヌイの聾啞学校の支援活動を立ち上げました。子どもたちの多くは、爆撃によって耳が聞こえなくなりました。この学校は、電気も水もなく、爆撃を受けた建物の中に入っています。

今夜、私が皆様に一番お伝えしたいこと、それはまさにこのことです。チェチェンの人々——特に子どもたち——は、ひどく苦しんでいます。チェチェン人全体が攻撃されているのです。何かができるのであれば、私たちは彼らを救うために行動しなければなりません。

●質疑応答

質問： 平和活動家や、国境なき医師団を始めと

する団体は、チェチェンでどのような活動をしているのですか？

ハッサン・バイエフ： 第一次チェチェン戦争時には、多くの人道支援団体が存在しましたが、第二次チェチェン戦争以降、ロシアはこうした国際組織を締め出しています。

質問： チェチェン社会にとって、もっとも危険だと思われるものは何ですか？

ハッサン・バイエフ： 現在進行している最悪の出来事の一つは、人々が病み、人生の意味を見出せなくなってしまう、自殺をしていることだと思います。

何千というチェチェンの家族が、次々と親族を失っています。私はこの目でそれを見てきました。家族の7、8人を失ってしまった人は、前途に希望を見失い、復讐のことしか考えられなくなってしまうのです。

もっとも恐ろしいことの一つは、戦争の時代に生まれ育った若い世代がいるということです。この世代が見てきたものは、破壊とレイプ、暴力の行使ばかりで、彼らはロシア人への憎しみを糧に育っているのです。彼らには、ロシアにも良識を持つ人々がいることが理解できません。彼らはただロシアの影の部分だけを見せられてきたのですから。

質問： この流れを変えられる何かが近い将来あるのでしょうか？それともこの流れは変えられないのでしょうか？

ハッサン・バイエフ： 状況は行き詰まりになってしまっています。今や戦争を進めている人々自身が、そこからどのように抜け出せばよいのか解らなくなっているのです。毎年、状況は悪くなる一方です。状況を打開する方法も見えてきませんし、大量の人々がチェチェン共和国から逃げ出しています。ひとたび最近起こったようなテロ行為が発生すれば、チェチェン人の誰もが容疑者扱いを受

けてしまいます。モスクワで最近殺された米国のジャーナリストでポール・フレーブニコフ (*2) という人がいましたが、すぐに二人のチェチェン人が犯人であると報道され、その後の調査は打ち切られてしまいました。

質問： チェチェンではどんな種類のイスラームが実践されているのですか？

ハッサン・バイエフ： 私たちはスーフィズム (*3) を信仰し、私たちの慣習法にとって助けとなるイスラームの要素を取り入れています。戦争が始まる前には、私たちに宗教間の敵対心や紛争

はありませんでした。

質問： チェチェンはとりわけ気が遠くなりそうなほど滅入ってしまう状況に今あるわけですが、希望の兆候はどこにあるのでしょうか？

ハッサン・バイエフ： 「最後に死ぬのが希望である」と思います。戦争は、いつか必ず終わります。そう思っています。

*1 心的外傷後ストレス障害

*2 元フォーブス誌ロシア語版編集長

*3 イスラーム神秘主義

せっかちに昔話に反論するな。
親父やお袋を傷つけるような言葉を吐くな。
それを時の流れが吹雪のように運び去る、
おまえの心に悲しみだけを残して。
彼らは書物を読んで世界を理解したのではない。
土地を耕し、嵐と戦ったのだ！
せっかちに昔の塔を壊すな、
それは時の流れが手もなく片付けてくれるさ。
これはおまえの親父の手のぬくもりだ！
お袋の爪の裏に残っている土、
それはお前の祖国の土だ！

——ルスラン・スパエフ 今西昌幸訳

▼詩について／チェチェンの民族哲学＝ウエズデンゲルとは：

ロシアの軍事行動に対抗する核になるのはイスラム神秘主義であるけれど、この地を訪れて10年が経った今、人間（とりわけ男性の）行動規範である「ウエズデンゲル」が、最も重要なチェチェン人の礎だと思っている。ウエズデンゲルとは、敬人・名誉・尊厳・正義・忍耐・寛容・高潔・仲裁・自由などの概念で構成される民族哲学であり、思想であり、行動規範であり、伝承文化でもある。とりわけ、個人の自由（マルシヨー＝チェチェン語）が』重視される。＜林克明＞（この詩の作者ムサー・アフマードフ氏は、『ウエズデンゲル』という本を執筆中で、この詩はその原稿から引用している）

参考：『現代思想』2006年5月号 特集：イスラームと世界

「純正パトリオティズムの悲劇 —チェチェン危機の深層—」

人物解説：チェチェン野戦司令官

シャミーリ・バサーエフ

Basayev, Shamil

(1965-2005) チェチェンの野戦司令官。南部の町ヴェデノ生まれ。チェチェンの19世紀の抵抗指導者、シャミーリの名にちなむ。80年代にモスクワで学び、コンピュータの売買を営む。青年時代を過ごしたモスクワのアパートには、チェ・ゲバラのポスターが貼られていた。1991年のクーデターの際、民主勢力だったエリツィン側のバリケードには100人ほどのチェチェン人が参加しており、バサーエフもその一人だった。チェチェンでの独立運動が本格化したころ、チェチェンに戻ってドゥダーエフらに合流。1991年11月、南ロシアのミネラルナヤ・バダーで飛行機をハイジャックし、トルコのアンカラに向かい、当時のロシア側による情報封鎖の実態を暴露するための記者会見場の確保を要求するが、トルコ当局に拒否される。1992年-1993年にかけてのアブハジア紛争（グルジア西部で分離独立を求めている地域）で、チェチェン人の武装勢力を率い、義勇兵となってアブハジア側に立ってグルジアと戦う。バサーエフは中東で軍事訓練を受け、「国際テロネットワーク」の一部だと報道がよくされるが、アブハジア紛争において、ロシア軍事情報部（GRU）の直接の訓練を受けていたことは常に省略される。GRUのスタニスラフ・ルネフ大佐によれば、「バサーエフの部隊は、訓練を受けただけではない。アブハジアの戦火に突入したこと自体が、GRUの専門家の指示によるものだ」（John. B. Dunlop "Russia Confronts Chechnya - Root of a Separatist Conflict" 1998, p145）という。

1994年-1995年にかけてグロズヌイ守備部隊の指揮官。1995年6月、ブジョンノフスクの病院占拠事件を主導。それまで和平を拒否していたロシアを交渉のテーブルに引きずり出した。この事件で民族の英雄となる。なお、ロシア軍の爆撃により、ヴェデノに住んでいた彼の家

「われわれは自由である権利のために闘っている」バサーエフ野戦司令官インタビュー

<http://chechennews.org/archives/20020524basayev.htm>

「チャンネル4——バスラン再び？」バサーエフ野戦司令官インタビュー／バスラン事件のあとで

<http://chechennews.org/chn/0503.htm>

BBC NEWS

Last Updated: Monday, 10 July 2006, 15:53 GMT 16:53 UK



Chechen warlord Basayev 'killed'

The most wanted Chechen rebel warlord, Shamil Basayev, has been killed, according to Russian media reports.

- Profile: Shamil Basayev
- Q&A: The Chechen conflict
- Basayev 'killed': Your say

族のうち、11人が死亡している。

第一次戦争の終わった後の1997年、チェチェン共和国大統領選挙に立候補するも次点にて落選。その後マスハドフ新大統領に招かれて入閣するが離反し、マスハドフと対立しはじめる。この時期にロシアの政商ベレゾフスキーと手を結び、資金援助を受ける。99年、ハッターブ司令官とともに隣国ダゲスタンに侵攻。2002年夏にはこれまでのいきさつを不問としたマスハドフ大統領との共闘を宣言するが、10月23日のモスクワ劇場占拠事件後、事件の責任を取るとしてふたたび陣営を離れた。その後の12月27日にグロズヌイで発生した親ロシア政権の政府庁舎爆破事件を自ら組織したと声明し、事件への不関与を声明したマスハドフ政権中央との路線の違いを明らかにした。マスハドフとの不一致はこの後同様のパターンが繰り返されている。

一定の軍事的資質を持ち、チェチェンの戦局を左右する人物と推察されるが、バサーエフの行動はチェチェンにとって裏目に出ることが多い。常にロシアを利用しようとし、結果としてロシアに利用されているのがバサーエフではないだろうか。

2005年7月10日、バサーエフはチェチェンに隣接するイングーシ共和国で、自動車での移動中に爆死した。ロシア当局は「特殊作戦によるもの」として、テロリストの殲滅を強調したが、根拠にとぼしく、遺体も公表されていない。逆に、自動車に積み込んでいた爆薬の誤爆説、独立派内の内紛説などが一般的になりつつある。

露保安当局

バサエフ司令官殺害

経産省

チエチェン独立派サミットテロ準備？

【モスクワ＝内藤泰朗】ロシア保安当局は10日、同国南部チエチェン共和国の独立派のバサエフ野戦司令官の写真を殺害したと発表した。330人以上が死亡した一昨年の北オセチア共和国での学校占拠事件など数々の大テロ事件を引き起こした黒幕とされる独立派武装勢力指導者の死は、独立派に大きな打撃を与えるのは確実だ。しかし、プーチン政権が描くチエチェンの正常化には依然、程遠い状況にある。

が外国からの情報によつて可能となったと強調した。プーチン大統領はこれに、満足の意を示して作戦に参加した要員に勲章を贈るよう命じた。

ただ、バサエフ司令官がテロ準備のため、大量の爆発物を運搬中に誤って爆発に巻き込まれ死亡したとの説もある。

いづれにせよ、学校占拠事件のほか、2002年のモスクワでの劇場占拠、04年のモスクワ地下鉄爆破事件などの大テロ事件を主導し、ロシアから指名手配されてきた同司令官が死亡したことには、ロシアでは明るいニュースとして受け止められている。

一方、チエチェン独立派にとつては、ロシアからの「独立闘争の象徴」であり、「チエチェンの伝説的な英雄」の死が指揮系統への打撃となることも間違いない。

しかし、ロシアはこれまでにも、ドゥダエフ大統領、ヤンダルビエフ元大統領代行、マスハドフ元大統領ら独立派指導者を殺害してきたが、同派は10年以上にわたり強固な抵抗を続けてきた。このため、ロシア国内でも、バサエフ司令官の死がチエチェン情勢の正常化につながるかとみるのは早計との見方が強い。



エチェンに隣接するイングーシ共和国で「特殊作戦」を行い、バサエフ司令官と武装勢力5人を殺害したと報告した。

同長官は、ロシアが初めて議長国を務める今年15日からの主要国首脳会議（サンクトペテルブルク・サミット）に向けてバサエフ司令官らが政治的な圧力をかけるためテロの準備をしていたと述べ、今回の「特殊作戦」

インタファクス通信によると、旧ソ連国家保安委員会（KGB）の後継機関であるロシア連邦保安局（FSB）のバートルシエフ長官は10日、プーチン大統領と会談し、9日夜から10日にかけてチエチェンに隣接するイングーシ共和国で「特殊作戦」を行い、バサエフ司令官と武装勢力5人を殺害したと報告した。

同長官は、ロシアが初めて議長国を務める今年15日からの主要国首脳会議（サンクトペテルブルク・サミット）に向けてバサエフ司令官らが政治的な圧力をかけるためテロの準備をしていたと述べ、今回の「特殊作戦」

チエチェン独立最強硬派指導者

バサエフ氏殺害

毎日

ロシア

【モスクワ＝杉尾直哉】ロシア当局は10日未明、露南部イングーシ共和国でチエチェン独立派武装勢力の掃討作戦を行い、独立派の最強硬派指導者のバサエフ氏を殺害した。

露連邦保安局のバートルシエフ長官が同日、プーチン大統領に作戦成功を報告した。バサエフ氏は04年9月に北オセチア共和国ベスランで起きた学校占拠事件（300人死）など一連の大型テロ事件の首謀者とされ、ロシア国内では作戦成功を歓迎する声があがった。

一方、軍事アナリストのフレイゲンガウエル氏は毎日新聞に「バサエフ氏は武装勢力内で敵が多く、内部抗争で殺害されたい可能性が高い。チエチェンの混乱状況は今後も変わらないと指摘した。独立派穏健派指導者マスハドフ元チエチェン共和国大統領が昨年3月に殺害されたのに続く大物指導者の殺害で、チエチェン独立派は主なリーダーを失った。プーチン政権を支持するチエチェン共和国のアルハノフ大統領は「武装勢力などの最も困難な戦いが完了した」と述べた。主要国首脳会議（サンクトペテルブルク・サミット）直前にバサエフ氏が殺害されたことで「サミットを狙ったテロの恐れが格段に下がった」とみる専門家もいる。だが、武装勢力が完全崩壊したわけではなく、プーチン大統領はバートルシエフ長官に「テロの脅威は依然高く、引き続き対策を強化せよ」と命じた。

バサエフ氏は02年10月のモスクワ劇場占拠事件、03年5月にチエチェンで起きた連続爆破テロ、04年9月の北オセチア学校占拠事件などで犯行声明を出した。



バサエフ氏

【モスクワ＝杉尾直哉】ロシア当局は10日未明、露南部イングーシ共和国でチエチェン独立派武装勢力の掃討作戦を行い、独立派の最強硬派指導者の

バサエフ氏を殺害した。露連邦保安局のバートルシエフ長官が同日、プーチン大統領に作戦成功を報告した。バサエフ氏は04年9月に北オセチア共和国ベスランで起きた学校占拠事件（300人死）など一連の大型テロ事件の首謀者とされ、ロシア国内では作戦成功を歓迎

する声があがった。一方、軍事アナリストのフレイゲンガウエル氏は毎日新聞に「バサエフ氏は武装勢力内で敵が多く、内部抗争で殺害されたい可能性が高い。チエチェンの混乱状況は今後も変わらないと指摘した。独立派穏健派指導者マスハドフ元チエチェン共

和国大統領が昨年3月に殺害されたのに続く大物指導者の殺害で、チエチェン独立派は主なリーダーを失った。プーチン政権を支持するチエチェン共和国のアルハノフ大統領は「武装勢力などの最も困難な戦いが完了した」と述べた。主要国首脳会議（サンクトペテルブル

ク・サミット）直前にバサエフ氏が殺害されたことで「サミットを狙ったテロの恐れが格段に下がった」とみる専門家もいる。だが、武装勢力が完全崩壊したわけではなく、プーチン大統領はバートルシエフ長官に「テロの脅威は依然高く、引き続き対策を強化せよ」と命じた。

バサエフ氏は02年10月のモスクワ劇場占拠事件、03年5月にチエチェンで起きた連続爆破テロ、04年9月の北オセチア学校占拠事件などで犯行声明を出した。

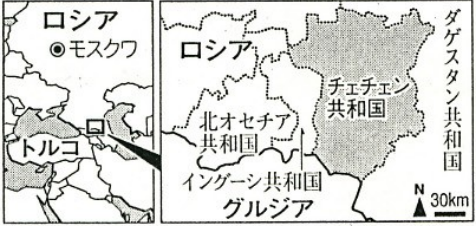
サミットへ反テロ誇示

チェチェン司令官殺害

独立派の求心力低下

【モスクワ＝稲熊均】ロシア・チェチェン武装勢力のバサエフ野戦司令官殺害は、ロシアが初の議長国となる十五日からの主要国首脳会議（サンクトペテルブルク・サミット）を前に、テロ絶対阻止を掲げるプーチン政権の強い姿勢を内外に示したといえる。独立派は昨年三月にマスハドフ元同共和国大統領が殺害され、求心力のある人物は残っていない。ロシアの独立派掃討が最終局面に入ったともみられる。

バサエフ司令官は、一九九四年のロシア軍チェチェン進攻以来、ゲリラ戦やテロ活動を指揮し、ロシア軍に抵抗。二〇〇〇年にチェチェン共和国がロシア軍に制圧された後は、モスクワ劇場占拠事件や北オセチア共和国の学校占拠事件などさま



最近のチェチェンをめぐる動き

- 1991年10月 ▶旧ソ連チェチェン・イングーシ自治共和国大統領選でドダエフ氏が当選、11月に独立宣言
- 94・12 ▶ロシア連邦軍がチェチェン進攻
- 96・4 ▶ドダエフ大統領がロシア軍攻撃で死亡
- 97・1 ▶連邦軍が完全撤退。チェチェン大統領選でマスハドフ氏当選
- 99・9 ▶連邦軍がチェチェンに再進攻
- 2000・5 ▶プーチン大統領就任
- 6 ▶ロシアがチェチェンに直轄統治制を導入、マスハドフ政権排除
- 02・10 ▶チェチェン独立派武装グループがモスクワ市の劇場を占拠。武装グループ41人全員射殺。人質約130人も死亡
- 03・10 ▶チェチェン共和国大統領選、親ロシア派のカディロフ氏当選
- 04・5 ▶グロズヌイの式典で爆発、カディロフ大統領死亡
- 8 ▶チェチェン大統領選で親ロシア派のアルハノフ共和国内相が当選
- 9 ▶チェチェン独立派武装勢力がロシア南部北オセチア共和国の学校に乱入。児童ら1000人以上を人質に取り、約330人が犠牲に
- 05・3 ▶ロシア治安部隊がマスハドフ元大統領殺害

さまざまなテロを仕掛けた首謀者とされてきた。ただ、テロが起こるたびに独立派ウェブサイトに「司令官の犯行声」などが出るもの、その存在には謎も多かった。独立派の主要幹部が次々と殺害される中で、最もロシアが警戒する司令官が生き残っていた。このことはプーチン政権の政治的な意図も潜んでいるとの指摘もあった。武装勢力の中でもテロリストの象徴的人物である同司令官が存在する限り、ロシア軍は対テロ強硬策を取りやすかったためだ。

学校占拠事件以降、報道統制も含めた反テロ政策をロシアが推し進める中で、独立派は既に弱体化。プーチン政権が威信をかけた十五日からのサミットでは、武装勢力が何とか存在感を示そうと、モスクワやカフカス周辺でテロを起こすのではないかと治安当局が警戒を強めていた。

【モスクワ＝金子亨】ロシア（41）の殺害をめぐる、露シヤ・チェチェン武装勢力による作戦の結果だったのか、事故だったのか、最高実力者、シャミタのか、事故だったのか、バサエフ野戦司令官露メディアの報道が分か

露当局、作戦詳細公表せず

「殺害」「事故」報道二分

露メディアは10日夜、同司令官は露軍ミサイルのピンポイント攻撃で殺害されたと報道。また、ロシア通信は同日、当局は同司令官の側近の密告により居場所を突き止めたとした上で、「バサエフ殺害は露特殊部隊による長年の活動の成果だ」とする露軍筋の話

これに対し、露有力紙コムルサントは11日、ミサイル攻撃は「説得力がない」と反論。ミサイルの破片が現場から見つからなかったことなどが理由で、同司令官は爆発物を積んだトラックが偶発的に爆発したため死亡した可能性が高い、と報じた。

イワノフ副首相兼国防相は11日、「バサエフが殺害されたことに疑いはない」と報道陣に強調しながらも、作戦の内容については「誰も詳細を話さないだろう」と明言を避けた。

プーチン政権追い風

チエチエン、沈静化は遠く



バサエフ司令官

【モスクワ＝駒木明】チエチエン独立派のバサエフ野戦司令官がロシアのイングーシ共和国で10日死亡したことは、テロとの戦いを最優先課題に位置づけてきたプーチン政権にとって大きな得点だ。しかし、チエチエン周辺では、武装勢力と治安部隊の衝突やテロが続いており、事態沈静化への道は遠い。

独立派系のインターネットサイトは10日夜、バサエフ司令官が「爆発物を積んだトラックが暴発したため」死亡したとの声明を掲載した。
ロシア治安部隊の作戦で殺害されたとの政府発表は否定。武装勢力内の士気を保つ狙いとも受け

取れるが、昨年3月に独立派のマスハドフ司令官が殺害された際のような「ロシアを壊滅させる」といった激しい報復宣言は見られない。一部のロシア紙も11日、死亡が偶発的な事故によるものとの見方を報じた。
バサエフ司令官は04年にベスランで起きた学校テロの首謀者とされる。プーチン大統領は10日「ベスランの子供たちのための、また彼らが行ったすべてのテロの当然の報いだ」と述べ、作戦を実行した特殊部隊に祝意を伝えた。
バサエフ司令官は、チエチエン独立派武装勢力の中でも、指揮したとされるテロの規模と残酷さで際だっていた。ロシア連邦保安庁は1千万ドル（約1億5千万円）の懸賞金をかけていた。死の前日の9日には、ロシアの外交官らを拉致、殺害したイラクのアルカイダ系武装勢力にインターネットサイトを通じて感謝の意を表明していた。ロシアに対する激しい憎悪を貫いてきたバサエフ司令官の死亡に対してロシア国内では「多くの命が救われた。ロシアと世界にとって良いニュースだ」（クリスロフ下院議長）との声も上がっている。

ロシア、バサエフ氏を殺害

チエチエン独立派幹部



バサエフ司令官

【モスクワ＝大野正】ロシア連邦保安局のバトルシエフ長官は10日、チエチエン独立派武装勢力の最大の実力者であるバサエフ野戦司令官を殺害した、とプーチン大統領に報告した。バサエフ氏は約330人が死亡した04年の北オセチア共和国での学校占拠事件など数々の大規模テロを主導したとされており、その死亡は、チエチエン独立派にとって大きな打撃となるとみられる。同長官によると、バサ

エフ氏はチエチエン共和国に隣接するイングーシ共和国で10日未明、ロシア特殊部隊による武装集団への掃討作戦中に死亡した。バサエフ氏は、15日からのサンクトペテルブルクでの主要国首脳会議（サミット）を前にテロを準備していたと、同長官は説明している。

バサエフ氏は90年代初頭からテロを通じてロシアへの抵抗を続け、02年のモスクワでの劇場占拠などにも関与した。昨年3月にロシア側に殺害されたマスハドフ元チエチエン共和国大統領の指導力が名目化したのに対し、武装勢力内で実権を保持し続けた。

■バサーエフの死が意味するもの (2006. 7. 11 植田那美/チェチェンニュース編集室)

チェチェン独立派最強硬派のシャミーリ・バサーエフ野戦司令官が、7月10日、イングーシ共和国で死亡した。ロシア当局は、バサーエフの死を「対テロ作戦」の成果（要するに殺害）として発表しているが、チェチェン戦争の継続を望んできたロシア当局と利害を共有し、ロシア特務機関によって命を保障されていたはずのバサーエフが、なぜ今殺されなければならなかったのか？

以下にバサーエフの死が意味するものを考えてみる。

なぜバサーエフは殺されなければならなかったのか？この問いに対するもっとも単純な答えは、「バサーエフは殺されていない」というものだと思う。バサーエフの死亡に関するロシア国内での報道のタイミングを見る限り、彼の死が計画されたものとは考えにくい節があるからだ。あるチェチェンの政治アナリストは、「・・・爆発の結果死亡したのがシャミーリ・バサーエフだと判明するまで、メディアによって報道されていたのは、ゲリラが不注意の結果自ら積んでいた爆発物のために吹き飛ばされたということだった。それが、今や、『特殊機関による華麗なる作戦』ということになっている」（7月10日 プラハ・ウォッチドッグ）と述べ、バサーエフの死は、特殊機関による作戦の成功というよりは、むしろ単なる事故であった可能性が高いと指摘する。

各紙は、今回のバサーエフ「殺害」を、7月15日から開催されるサンクトペテルブルグ・サミットを前に彼が計画していたとされるテロと結びつけ、「サミット直前の武装組織指導者殺害はロシアのテロ対策の『大きな成果』」（7月11日付読売新聞）などと報じている。けれども、エネルギー政策やイラン核問題などで国際社会から警戒心をいだかれている議長国ロシアが、サミット中にほとんど批判を受けずに済むもっとも効果的な方法は、サミット期間中にバサーエフにテロを実行させることではなかっただろうか。ちょうど昨年（2005年）のサミットの議題が「ロンドン同時多発テロ」によって「対テロ戦争」一色に覆われてしまったよう

に、バサーエフに大規模なテロを起こさせることによってロシアが得たはずのものも、また少なくないように思われる。また、サミットの有無に関わらず、チェチェン独立派の中枢にバサーエフを据えておくことは、チェチェン戦争の継続を望むロシア当局の思惑にも沿うものではなかっただろうか。

もっとも、バサーエフの死がロシア側の利益を損ねるものであるかということ、必ずしもそうとは言い切れないだろう。たとえば、北朝鮮による先日のミサイル発射問題に関して、コメルサント紙から「インターネットで発射を初めて知った」ことを暴露され、批判の矢面に立たされているロシア軍部が、自らの索敵能力をアピールするためにバサーエフを殺してみせたという可能性もある。より可能性が高いのは、バサーエフにこれまでのような利用価値がなくなったというものだ。米軍がイラクでのプロパガンダキャンペーンの中で「ザルカウィと呼ばれる男達」を必要としていたように、ロシアにも「対テロ戦争」を推進するためにわかりやすい「敵」が必要だった。彼らが消されることがあるとすれば、それは、彼らの生死が状況の大勢に影響を及ぼさないと判断された場合、あるいは、彼らがわかりやすい「敵」として動いてくれなくなった場合などではないだろうか。

いずれにせよ確実なことは、ロシアとの対話を望むマスハドフの遺志と権力を継ぐ者がチェチェン独立派政権内部に現れることを、ロシア側が望んでいないという事実である。なぜなら、そうした人物の存在は、誰がチェチェン問題の平和的解決を妨げているのかを国際社会に対して明らかにしてしまうから。

バサーエフの死が一人のテロリストの死として片付けられてしまうなら、一人のテロリストの誕生にロシアが責任を負っていたことも、また語られることはないだろう。バサーエフの死が意味するもの、それは彼の遺志を継ぐ者たちの新たな誕生だと思う。

■テロ製造会社社長殺害さる

(2006. 7. 13 ワジム・ツブノフ、「新時代」 — ロシア・ノーボスチ通信社用に特別寄稿)

<http://www.rian-japan.com/opinions/details.php?p=321&more=1>

シャミル・バサエフ一掃作戦の詳細を広範な一般社会は恐らく知ることはないだろう。昨年3月にマスハドフ壊滅の時と同じように公式的説は壊滅そのものは少し前に起こったのではないかとの疑いを特別払拭しようとしな。少し前というのはもしかしたらマスハドフに替わりイチケリアの大統領になったサドゥラエフが殺害された時(06年6月17日)かも知れない知れない。

サミット直前に殺害されたとする説は皆が宗規と認めている説であり、イングーシでの特殊作戦の日とペテルブルグで始まるG8サミットとの関連を疑っている懐疑論者の信念など吹き飛ばすほどである。しかしこの偶然はあまりにも見え透いている。

従い、実際彼の殺害がどこでいつ起ころうと(サミット直前に起こったとする)ロシア政権の政治的成功は疑う余地がない。とにもかくにも今日まであらゆるテロ技術のうちで最も残酷な権化そして存在していたチェチェン抵抗派の最も不快極まるリーダーが殲滅された。バサエフは、彼自身の生来の論理的意思と個人的な特質も手助けし実際に凶悪で非妥協的な象徴になり、手当たり次第のすべてのテロ行為の責任を引き受けテロリストとして名声を容赦なく利用した。バサエフ自身は実際にはテロを統制の取れた行為までに押し上げる組織者や教唆者にはなり得ずむしろ別であった。バサエフは、戦闘者としての急進翼の権威を見せつけ、テロ行為製造の一種の会社を設立することに成功した。彼は、行なったテロ行為の多くは準備の最終段階かあ

るいは事後に知った。もし、公式レベルで叙事詩的、勇壮な敵のナンバーワンとしてバサエフの名前を挙げるなら、「戦場」で働いた特殊部隊員の証言によれば、彼らは自分の戦場での作業では全く別のテロリストを狩猟しておりそれらの名前はロシアの通常のテレビでは全く伝えられていない。

つまり、バサエフ狩りは政治的シンボルとの闘いであり、通常の作戦捜索行為の法則は当てはまらないほど不思議なものだった。まさにこの状態(自分が政治的シンボルと扱われている状態)をバサエフはうまく利用した。このような闘いが長く続けば続くほど、具体的な破壊行為に従事したチェチェンテロリストの雑役労務者は強くなり独立していった。バサエフはといえば、明らかにある種のチェチェンの種族長ヤシン、イチケリアのテロリストの精神的父になるよう準備した。しかし、際限のない環境のなかに育ち、成長し強くなっていく「若い狼たち」にとっては精神的な父などまったく必要なかった。テロ製造会社は創設者なしでも、またいかなる内部の連絡なしでも働くことができた。

そうはいつても、ロシア権力は、バサエフ撲滅での実質的な勝利でも幻想は抱いていない。死んだバサエフは生きていた時にバサエフが演じる役と全く同じ役、象徴としての役を演じている。この役の最後の上演はもちろんもっとも輝かしい。しかし非常に短い。

著書の意見はいつも編集局の意見と一致しているとは限らないことを付け加えたい。

■ザカーエフ：シャミーリ・バサーエフの死を語る（2006/7/10 ラジオ・リバティ）

チェチェン独立派外相のアフメッド・ザカーエフは、7月10日、ラジオ・リバティのインタビューに応じて、シャミーリ・バサーエフの死について語った。対ロシア最強硬派野戦司令官の死がチェチェン情勢の行く末に様々な憶測を生む中で、ザカーエフは彼の死によって変わるものなど何もないと述べている。なぜなら、ロシア当局の中に問題の政治的解決を求める意思が生まれ限り、18世紀から続くチェチェン独立戦争の歴史に終止符が打たれることはないからだ・・・。

<http://rferl.org/featuresarticle/2006/07/1D173EFD-6C69-4991-9084-7DB1FF71953C.html>

ラジオ・リバティ：プーチンや（クレムリン傀儡政権の代表であるアル・）アルハーノフは、バサーエフの死がチェチェン紛争を制御する上で新たな局面をもたらしたこと、そして、バサーエフが極めて激しい憎悪の対象であったために、もはや多くの問題が解決してしまったということを、本日表明しました。バサーエフの死は、チェチェンの武装抵抗運動にどのような影響を与えていくのでしょうか？どんな変化がもたらされるのでしょうか？

アフメッド・ザカーエフ：何も変わりません。もしも何かが変わるのだとすれば、それは個性というものの変化にすぎません。本質的に、状況は変わっていないのです。私たちの紛争は、私たちの武装闘争は、何百年も続いてきた歴史の中にあります。けれど、ロシアのプロパガンダ、特に軍部のプロパガンダは、この紛争の本質を特定の人物の個性によって説明することが

見当違いであるにもかかわらず、こうした問題をつねに個人の責任に押しつけようとしてきました。

チェチェンの人々は、チェチェンの独立、国家としてのチェチェンという理想を抱いている人々です。というよりも、むしろこうした理想の中心にいるのがチェチェンの人々で、いつの時代でも指導者たちはその理想の担い手になっているのです。ですから、今日変わったことなど何ともありません。同じような状況の変化は、（チェチェン初代大統領の）ジョハール・ドゥダエフが（1996年に）殺されたときにも、（チェチェン元大統領のアスラン・）マスハドフが（2005年に）殺されたときにもありました。またそれが繰り返されただけです。

けれども、すべての始まりは、（18世紀に現れたチェチェン独立戦士である）シェイク・マンスールに遡ります。当時の（訳注：ロシアの）将軍や軍部も、この問題を直接各個人の問題と結びつけ、独立運動の指導者たちを消すことで政治的問題を解決しようとしてきました。ですが、そんなことは完全に不可能なのです。なぜなら、こうした人々は抵抗運動の核ではないからです。抵抗運動の真の核は、チェチェンの国民です。1人や2人、あるいは10人の死によっても、状況は変わらないと、私は確信しています。この戦争の中で25万人の命が失われましたが、今も紛争は続いていますし、ロシア軍部の中にこの紛争を政治的な手段によって解決しようとする政治的意思が芽生えない限り、今後も紛争は続くでしょう。互いに受け入れ可能な合意が達成されて初めて、私たちはロシアとチェチェンの長期にわたる安定した平和について語る事ができるのですから。



■国際

独立派に降伏呼び掛け／ロシア、対話用意も表明

【モスクワ15日共同】インタファクス通信によると、ロシア連邦保安局のパトルシェフ長官は15日、チェチェン共和国の独立派に対し、武力行為をやめて降伏し、共和国政府や連邦政府との対話に8月1日までに応じるよう呼び掛けた。

プーチン政権はチェチェン独立派に対しては「交渉は一切しない」との原則の下、武力で制圧する姿勢を堅持してきたが、今月10日に独立派武装勢力の最高指導者バサエフ司令官を殺害したことで、対話路線に転じた可能性もある。

だが、議長国を務める主要国(G8)首脳会議(サンクトペテルブルク・サミット)開幕に合わせての呼び掛けは、ロシアが平和を希求する姿勢を国際社会に示す“演出”とも言えそうだ。

(2006/07/15 17:14)

ロシア特殊部隊 スペツナズ

月額1,980円の借り放題レンタル。DMMなら最初の1ヶ月は完全無料!

Ads by Goooooogle

ロシア旅行がさらにお得

今なら海外ツアーのオンライン予約でVISAギフト券をプレゼント!9月15日迄

このサイトに広告を掲載

【国際・最新ニュース】

- ▶ ベイルート空港を再襲撃、衝突激化へ - 07/16 10:25
- ▶ カナダ人7人が死亡、爆撃で - 07/17 10:25
- ▶ 6カ国協議推進で一歩前進 - 07/16 22:55
- ▶ 対北朝鮮決議を採択、北は反発 - 07/16 20:11
- ▶ ロケット弾攻撃、8人死傷 - 07/16 21:01
- ▶ 決議に拘束されずと声明 - 07/16 19:07
- ▶ 出国希望者は退避、留邦人 - 07/16 18:00
- ▶ ガザ北部再侵襲、3人死亡 - 07/16 18:00
- ▶ 北朝鮮、説得に応じず - 07/16 18:00
- ▶ 鳥インフル42人目の感染 - 07/16 16:19
- ▶ 「最警戒地域」とFAC、鳥インフル - 07/16 16:19
- ▶ 英政権揺るがず、融資 - 07/16 16:19
- ▶ 対北朝鮮決議を採択、章の言及削除 - 07/16 16:19
- ▶ レバノン首相、停戦要請 - 07/16 16:19
- ▶ 側は拒否 - 07/16 16:19
- ▶ ロ政府の保証必要なら、一チン大統領 - 07/16 16:19

ハッサン・バイエフ医師招聘延期についてのお詫び

7月14日現在も、バイエフ医師が申請した米国国土安全保障省の発行する旅行証書(UTD)発給が、いまだなされていません。6月以来早期発給を申請してきた努力が徒労に終わっています。

このためもはや、近々発給があったとしても訪日は無理と判断し、訪日日程を11月に延期しました。「ハッサン・バイエフを呼ぶ会」は、関心を寄せてくださった皆さん、日本各地でイベント開催準備にあたられた全てのみなさまに深くお詫びします。

2006.07.14 ハッサン・バイエフを呼ぶ会

ハッサン・バイエフ医師からのメッセージ

親愛なる友人のみなさま！

日本のみなさまが、私個人の運命と、我がチェチェン民族の不幸な命運に深い関心をお寄せ下さっていることに大変感謝しています。私は苦々しい想いと、落胆の中で、みなさまに私が、みなさんと直ぐにはお会いできなくなったことをお知らせしなくてはなりません。

私は自分たちが出来ることを全部やってみました。しかし、今回の状況は私の力で打開できるものではありませんでした。私はみなさまに約束した日本訪問を果たせなくなった事を深くお詫びします。時にアメリカからの出国は、それほど簡単ではなく、ロシアからの出国よりも困難であることが明らかとなりました。

私はみなさまの素晴らしいお国を訪問できることに大変な期待を寄せてきました。日本訪問は、私の子ども時代から夢だったのです。私はこれまで日本の文化に深い関心を寄せてきました。

というのも私は、日本の伝統に我が民族の伝統との深い共通性を感じ取ってきたからです。それだからこそ、私は柔道の修行をこの20年間ずっと続けてこられたのだと思います。近い将来、必ずや、みなさまのお国を訪問するチャンスが来ると固く信じております。みなさま全ての方々の幸せを願い、世界の人々が太陽と自由の元に暮らせますように。

みなさんとお会いできる日まで、さようなら！

2006.07.15 ハッサン・バイエフ

アンケートにご協力をお願いします

本日はご来場ありがとうございます。よろしければ、アンケートへのご協力をお願いいたします。

1. 今日の報告会をどこでお知りになりましたか？

- ハッサン・バイエフを呼ぶ会ホームページ
- チェチェンニュース・チェチェンイベント情報・チェチェン総合情報
- その他のインターネットサイト（ サイト名_____）
- 友人・知人から
- 新聞・雑誌などの報道で（媒体名_____）
- その他（ _____ ）

2. チェチェン関連の報告会・集会には初めて参加されましたか？

- 初めて
- 2～3回目
- それ以上

3. 本日の集会へのご意見、ご感想、今後の活動へのご希望などがありましたらお書きください

4. よろしければ、お名前とご住所をお願いします。バイエフ医師の招聘の際には、ご案内をさしあげます。

〒

メールアドレス： _____ @ _____

お名前 _____

ご協力ありがとうございました。

2006/7/17 チェチェン連絡会議

Faxの場合は 03-3755-7096 にお寄せください。